

◇経済地理学会総会および第 63 回大会のお知らせ【第 1 報】◇

2016 年度経済地理学会総会および第 63 回大会は下記の要領で開催されます。大会シンポジウム、フロンティアセッションの報告者およびラウンドテーブルの企画を公募いたしますので、ふるってご応募ください。なお、詳細は第 2 報以降でご案内いたします。

- ◆日 程：2016 年 5 月 27 日（金）常任幹事会
28 日（土）評議会、共通論題シンポジウム、懇親会
29 日（日）フロンティアセッション、総会、ラウンドテーブル
30 日（月）エクスカージョン

◆会 場：熊本大学黒髪北キャンパス

◆共通論題シンポジウム

テーマ：地方創生と経済地理学

昨今、地域経済を取り巻く種々の動きが語られるなかで「地方創生」という用語が主役の座を占めつつある。大きな転機として、2014 年 9 月の「まち・ひと・しごと創生本部」の発足がある。アベノミクスの第 3 の矢の中心施策として位置づけられたといえよう。

実際、21 世紀になって日本が人口減少期に入ると、地域経済の将来に対する不安は急速に焦点を結んできた。国の方針決定と呼応するように、ここ 2 年ほどの間にインパクトの強い政策提言に関する書物が発表されている。これらの書物は今日地域経済が抱える問題をそれぞれの視点から鋭く浮かび上がらせ、その対処法を提示している。

増田他（2014）は人口減少問題を地域問題の大前提として設定した。彼らの「地方消滅」という情報発信は政府の動きと連動しており、提言のもたらした衝撃は地方創生政策の地ならしをしたといえるだろう。

藻谷他（2013）は、「里山」というキーワードで地域資源に根差した新たな地域経済発展のオルタナティブを示した。彼らの提言は大きな意味で「内発的発展論」のリバイバルであるといえるが、財政支出の限界と消滅の危機感の強まりを背景として、紹介される地域再生の事例は、以前のものよりはるかに強い迫力を伴っている。

富山（2014）は、日本における「地域的分業の変容」を基軸にローカル経済の問題を論じている。「グローバル化のパラドックス」として近年の変化を明瞭に描き出しているが、半面単純化のあまり「国民経済」の視点を欠いている。

さて、経済地理学は 21 世紀の日本の地域経済の変化に対し、社会科学として、実証科学として、そして政策科学としてどのような指針を示すことができるであろうか。本大会では、2014 年地域大会での新たな地域作りの論点や、2015 年地域大会の地方都市のダウンサ

イジングの議論も踏まえつつ、幅広い視座からの地方創生論に向けて、会員諸氏の知的好奇心を刺激するような議論の場を提供したいと考えている。

文献：

増田寛也編著『地方消滅—東京一極集中が招く人口急減—』中公新書，2014年。

藻谷浩介他『里山資本主義—日本経済は「安心の原理」で動く—』角川 one テーマ 21，2013年。

富山和彦『なぜローカル経済から日本は甦るのか—GとLの経済成長戦略—』PHP新書，2014年。

◆大会シンポジウム報告申し込み

上記テーマを検討するに際して次のサブテーマを考えています。

- ①人口減少社会における労働市場
- ②グローバル経済の進展と国民経済における地域間分業
- ③地域政策の転換
- ④「地方創生」の取り組み

報告希望者は、氏名・所属・報告のタイトルを明記の上、報告要旨（400字程度）を添えて、下記の問い合わせ先宛に、2015年10月31日（土）までに e-mail にて申し込んでください。ソフト委員会で審議の上、結果をお知らせします。発表者としてお願いする場合には、要旨集に掲載する原稿を改めてお願いすることになります。

◆ラウンドテーブルの企画募集について

ラウンドテーブルの企画を募集します。ラウンドテーブルのテーマ名、オーガナイザー名・所属、話題提供者名・所属を明記の上、ラウンドテーブルの主旨（400字程度）を添えて、11月30日（月）までに申し込んでください。申し込み先はシンポジウムと同じです。

◆フロンティアセッションの発表者推薦のお願い

フロンティアセッションは、原則として40歳以下の経済地理学会会員が経済地理学に関してなされた顕著な研究成果（博士論文もしくはそれに相当する研究成果等）を広く学会に問う場です。自薦・他薦を問いませんので、発表者をご推薦ください。発表者の氏名・所属、予定される論題、推薦者の氏名・所属を明記の上、推薦理由（800字程度）を添えて、12月31日（木）までに申し込んでください。申し込み先はシンポジウムと同じです。

◆問い合わせ先および申し込み先

〒802-8577 北九州市小倉南区北方 4-2-1 北九州市立大学経済学部
田村大樹（北九州市立大学経済学部）

TEL. 093-964-4343

e-mail: t-daiju(at)kitakyu-u.ac.jp

(at)は@に置き換えてください

◆**実行委員会**

実行委員長：高木彰彦（九州大学）

ハード部門：鹿嶋洋（委員長，熊本大学），伊東維年（熊本学園大学），鈴木康夫（東海大学），高野誠二（東海大学），外川健一（熊本大学），中野元（熊本学園大学），能津和雄（東海大学），山本耕三（熊本大学）

ソフト部門：田村大樹（委員長，北九州市立大学），荒木一視（山口大学），川瀬正樹（広島修道大学），杉浦勝章（下関市立大学），寺谷亮司（愛媛大学），友澤和夫（広島大学），根岸裕孝（宮崎大学）